

演題『陸軍中野学校創立時の不可思議』～疑問点から探る仮説の考え方～

発表の趣旨

平成24年12月22日『第1回諜報研究会』

(早稲田大学20世紀メディア研究所・NPO法人インテリジェンス研究所共催)

株式会社PRC 太郎良譲二(中野二誠会会長)

平成24年5月、20世紀メディア研究所の月例会にて早稲田大学山本武利名誉教授が、「アジア歴史資料センター」公開資料から以下の公文書を発見し、『昭和14年5月11日軍令陸乙第13号並びに「大臣決済」に基づき防諜研究所を廃止し新たに後方勤務要員養成所を新設せられ』との記述内容から『陸軍中野学校の前身として知られている「後方勤務要員養成所」は、「防諜研究所」を昭和14年5月に廃止して新設されたもの』と発表をされた。

当記述内容は、亡父が中野校友会第4代目会長として弊社に本部を置き、亡父の死後(昭和53年9月)も校友会本部を引き継いでいた事務局担当の小生にも全く初耳であった。

●『後方勤務要員養成所 乙種長期第1期学生教育終了の件 陸軍大臣 板垣征四郎殿』

「後方勤務要員養成所 乙種長期第1期学生教育報告」

後方勤務要員養成所長 秋草俊(昭和14年7月)(資料センターC01004653900)

●『増給支給並に詰切居残服食料支給部隊に指定相成度件上申』

後方勤務要員養成所長 上田昌雄(昭和15年5月2日)(資料センターC04122321400)

山本先生から同資料の紹介を受けた後、中野学校について最も詳細かつ正確に記録した中野校友会刊「陸軍中野学校(校史)」や、新たな防諜機関設立や中野学校創立・教育に深く係った一人、福本先生の遺稿(校史完成後に補足版として中野校友会が作成)、暦年の中野校友会誌などと付き合わせたが同期間中の関係記述はあるものの内容が異なり、その結果を含めて中野卒業生、1期生と4乙の方に問い合わせたが全く知らない記述とのことであった。

当記述内容が事実であれば、以下の矛盾点が生じる。

1. 昭和13年7月入学の中野1期生は、「防諜研究所」に入所し、卒業2ヶ月前に新設された「後方勤務要員養成所」を卒業したこととなる(中野校友会誌第1号の1期生の寄稿文には記述なし)。
2. 上田先生(前記・上申書発信者)は、昭和15年春に欧州勤務から中野学校創立準備のため帰国、学校幹事として配属された方で、秋草所長に次いで要員養成所長となった記録は無い(印は同一)。
3. 「校史」には、『昭和13年1月勅令で後方勤務要員養成所が創設され』と記述されている。
4. 「校史」の編纂期(S50-53年)には福本先生及び上田先生は健在で、同書「創立期」の項は自身が原稿・校正を入れているはずであり、さらに遺稿(補足版)にさえも同記述がなされていない理由が理解できない(当記述内容を隠す必要性はない)。

以上から、当該文章部分は「何らかの意図」を持って記述され大臣宛提出された書類であると類推される。なぜ事実と異なる文書が受け付けられ陸軍大臣宛に上申されたのか、正に不可思議である。

兵務局の受付印がある。『陸軍省内部にも秘密裏に要員養成所をつくるよう』命じたのは阿南局長であり(校史記述)、当該文章部分の経緯に係っていたのであろうか。陸軍省内部の手続き上の問題か。

状況証拠的発想ながら、今後『昭和13年1月勅令』『昭和14年5月11日軍令陸乙第13号』等々の確認証拠を探し出すに当り、研究会メンバーのご助言・ご協力をいただくために発表に至った。

(2013.05.03記)